

患者主体の統合医療

患者はリアル映像で治療の様子を確認できる 歯科衛生士がデンタルケアを集中指導



吉田歯科診療室デンタルメンテナンスクリニック(東京都中央区)

昨年(09年)夏、日本橋から銀座へ移転したばかりの吉田歯科診療室デンタルメンテナンスクリニック。院長を務める吉田格先生(写真)は、コンポジットレジンというプラスチック素材を使う歯の修復、歯の根っこの治療(根管治療)、インプラントなどを、顕微鏡を用いて精密診療を行う歯科医だが、同時に歯科治療前後の患者に対し、歯のケア、つまりお手入れの重要性を伝える患者教育も徹底して行っている。

というのも歯のことをきちんと知り、自己管理さえできていれば、歯が悪くなることを事前に予防できるわけだが、悪くなった原因が解決されていなければ、最新の技術を使ってどんなに高度で高額な治療を行ったとしても、元の木阿弥になるからだ。そして、その原因は患者さんの日常生活の中にあると言う。

このため現在のクリニックには、室内空気の汚染を防ぐ空調機器まで揃った手術まで対応できる部屋と、基本的な歯科治療がすべてできる部屋以外に、歯科衛生士によるケア専用の部屋まで用意されている。ここで患者は徹底したケアを集中的に学べるわけだ。

また、患者自身が自分の歯を治療中でさえ詳しく見られるよう、すべての部屋に顕微鏡とメガネ型ディスプレイが備えられているのも大きな特徴だ。患者は、先生が自分の歯を治療している様子をディスプレイ越しに生中継で見ることができるのである。

●世界から遅れを取っている日本の“予防歯科”

患者教育の一環としてはほかに、月に一度、誰でも参加できる無料のオープンセミナーを待合室のスペースを使って開いている。話題はインプラントのこと、審美治療、顕微鏡治療のことなどさまざまで、参加者はリラックスした雰囲気の中、テレビモニターで顕微鏡治療時の映像などを見ながら治療法や歯のお手入れについて学ぶことができる。

歯科医師であってもなかなか見ることができない顕微鏡からの動画、現代歯科医療の盲点、日本の保険医療の限界などについても話題が及ぶことがあり、飽きることなくセミナーの1時間が過ぎてしまう。もちろん患者にとっては初めて聞くことばかりで、歯について知らないことがあまりにも多すぎることに驚かされる。知っていれば予防は簡単なことだが、知らずにいれば、問題が発生して気付いた頃には手遅れの事が多い。だからこそ、まずは「知ってもらう」というところに力を注ぐというのが吉田先生のスタンスだ。

「歯科医療費にお金がかかっている人は、それに比例するように、体の治療

にかかる総医療費にもお金がかかっている、という事実を示した統計があります。つまり、歯の調子が悪ければ、それがきっかけとなり、後押しになって、体の方にも不調を招いたり、もともとあった不調を大きくしやすいということです。歯について知らないことがあるというのは、とても怖いことなのです」という吉田先生。

また、歯科医学教育に‘予防’という観点があまりに手薄なことも、日本の歯科治療が世界から遅れを取っている大きな要因だとして、後進の指導にも力を注いでいる。今の教育には治療に治療を重ねるという方向性しかなく、再発防止策が抜けており「海外に研修に出かけると、日本の遅れている現状が恥ずかしいと思うほど」だという。

「36℃、100%。これは口の中の温度と湿度です。ここに食べ物が入ってくるのですから、お手入れをしなければゴミが腐るのと同じように、歯でも大変なことが起こると想像できます」一。

吉田先生のわかりやすい解説は、クリニックのホームページにも満載で、ブログのほか顕微鏡治療の動画を配信する YouTube も人気だ。歯科医として治療だけでなく、患者さんと一緒にそのメンテナンスに取り組もうとする姿勢は、クリニック名にも表現されている。

■吉田歯科診療室デンタルメンテナンスクリニック

〒104-0061 東京都中央区銀座 3-11-16 銀座 Salice ビル 2 階

TEL : 03-3248-0418

FAX : 03-3248-0417

<http://www.y-dc.org>